

キッズ・モニターアンケートの概要

「新型コロナウイルス感染症にかかわることについて」

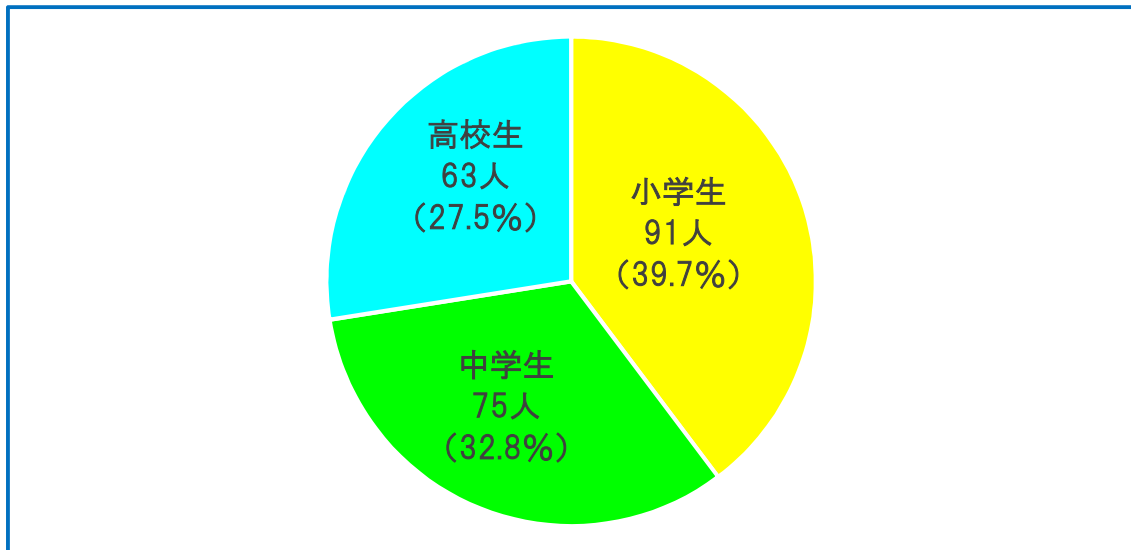
アンケートの実施結果は以下のとおりでした。
キッズ・モニターのみなさん、ご協力ありがとうございました。

概要

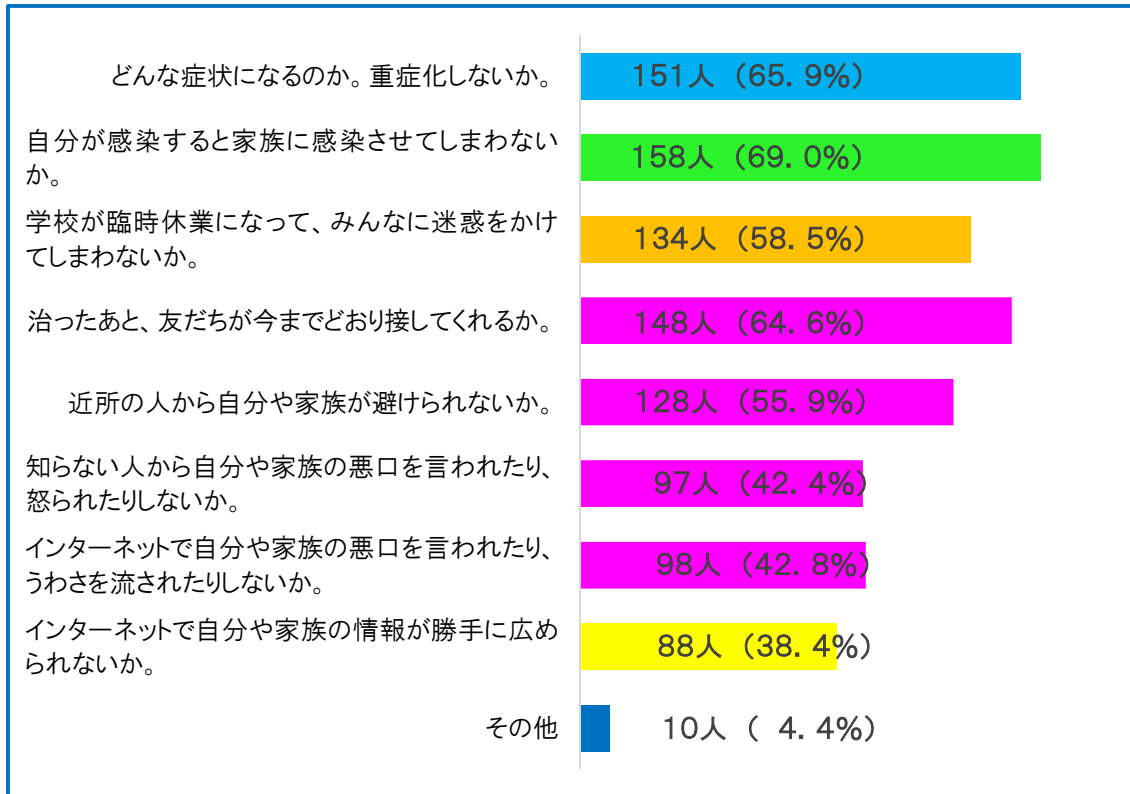
- 1 実施期間 令和2年11月16日～12月5日
- 2 回答者数 229人
- 3 回答率 41%
- 4 実施方法 インターネットによるモニター調査
- 5 担当課 教育委員会事務局 人権教育課

アンケート結果概要

Q1 あなたの年代はどれですか。(単一回答)



Q2 新型コロナウイルスに感染することについて、どんなことに不安を感じますか。(複数回答)



複数回答のこの設問に1, 0 1 2 (一人当たり4.4個の項目を選択) 個の回答があり、多くの方が新型コロナウイルス感染症にかかわって、様々な不安を抱えて学校生活を過ごしていることがわかりました。

また、不安の内容を「症状」、「家族への感染リスク」、「周りの人への影響」、「嫌がらせや差別」、「個人情報の流布」に大別すると、「嫌がらせや差別」に不安を感じている人は、延べ471人に上り、感染によって周りの人から受けるかもしれない言動への不安がうかがえます。

重症化等の症状	家族への感染	友だちへの影響	嫌がらせや差別	個人情報の流布
151人	158人	134人	延べ471人	88人

「その他」の回答として

- ・受験生なので、試験を受けに行くのも心配。
- ・友だちからいじめられないか。
- ・まともな判断ができないおとなが多いことに不安を感じます。

などがありました。

Q3 Q2で選んだ理由として、特に思うことがあれば、自由に書いてください。(自由回答)

自由回答のこの設問に、たくさんの意見をいただきました。以下に、いただいた意見の一部を紹介します。

【小学生モニターの方から】

- ・すべて心配で不安です。入院をひとりするのが怖いです。
- ・いじわるされたら嫌だ。
- ・バイ菌扱いされそうで怖いから。
- ・今は SNS とかでデマが流出して被害を受けたお店や人がたくさんいるので、自分がコロナに感染していなくても悪口を言われている可能性もあります。自分はコロナよりもデマの方が怖いと思います。

【中学生モニターの方から】

- ・今はネットで何でも拡散されるのでこわいです。
- ・母親が入院した場合、自分でどう生活すれば良いか。
- ・受験前に濃厚接触者やコロナやインフルエンザにならないか不安。
- ・母に持病があるので、もし感染したらとてもこわい。
- ・受験もあるので、自分や家族がかかると学校にも迷惑がかかるし、いろいろ言われることがこわい。
- ・コロナをきっかけに差別がおこったり、その人が感染前の生活ができなくなってしまったりして、人権が失われてしまうかもしれないから。
- ・もし自分が感染者になった時、避けられたり悪口を言われるのは嫌なので詳しいことは公表してほしくないなと思います。難しい問題だと思います。
- ・私の学校はかかった人はまだいませんが、かかったと嘘の噂が流れ、避けられてしまった子がいたので私も心配です。
- ・インフルエンザとかは特に報道されないのに、コロナは「どこに住んでいて」、「何歳代の男性か女性か」、「職業」、「どこで何をした」まで県から発表されるので、皆が関心を持ち、噂になる。そこまでをなぜ発表するのか疑問。

【高校生モニターの方から】

- ・私の住む地域では、まだ感染者が少ないので感染したら噂になると思うから。
- ・臨時休校になった高校は、自分の高校より遠いが、色んな噂が流れてきたから、自分が感染したらと思うと本当に不安。

- ・陰性になっても症状が長期的に残ることがあるともいわれるし、まだわかっていないウイルスなので不安。感染した人が周りからの中傷で辛い思いをした話をテレビで観たので、感染したらどのようなことになるか不安。
- ・近くで感染者がいないので病状に対する不安がある。個人情報などの噂には関心がないです。
- ・居酒屋の前で騒いでいるおとなやハロウィーンイベントなどへ気軽に出かける人を見ると自分はなんで我慢してるんだらうと悲しい気持ちになります。
- ・コロナウイルスにかかりたくてかかったわけでもないのに差別をしたり、噂をしたりするのはしてはいけないと思う。

これら以外にも、漠然とした不安を抱えているといった意見や、不安で通学しづらくなっていること、感染したら家族や学校の人に迷惑をかけてしまうと心配していることなどの意見がありました。

感染したら嫌がらせや差別を受けるかもしれないという不安は、体調不良を訴えたり、病院を受診したりすることをためらわせ、その結果、感染を拡大させてしまいかねないことが指摘されています。嫌がらせや差別に対する不安を減らすためには、嫌がらせや差別をなくすしかありません。おとなが力を合わせて、このことに取り組むことが子どもたちの安心につながると考えます。

県教育委員会では、子どもたちの不安や悩みに寄り添い、支援できるよう、次の取組を行っています。

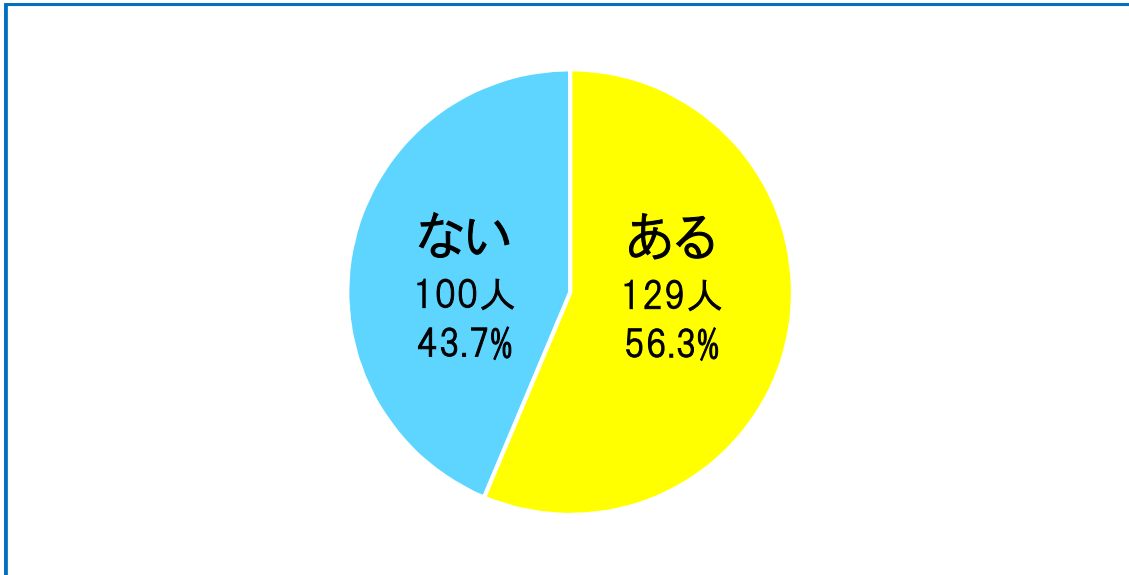
子どもSNS相談みえ

県内の中学生や高校生が、いじめをはじめとするさまざまな悩みに関することをLINEで相談できる取組を行っています。(平日17時～22時)

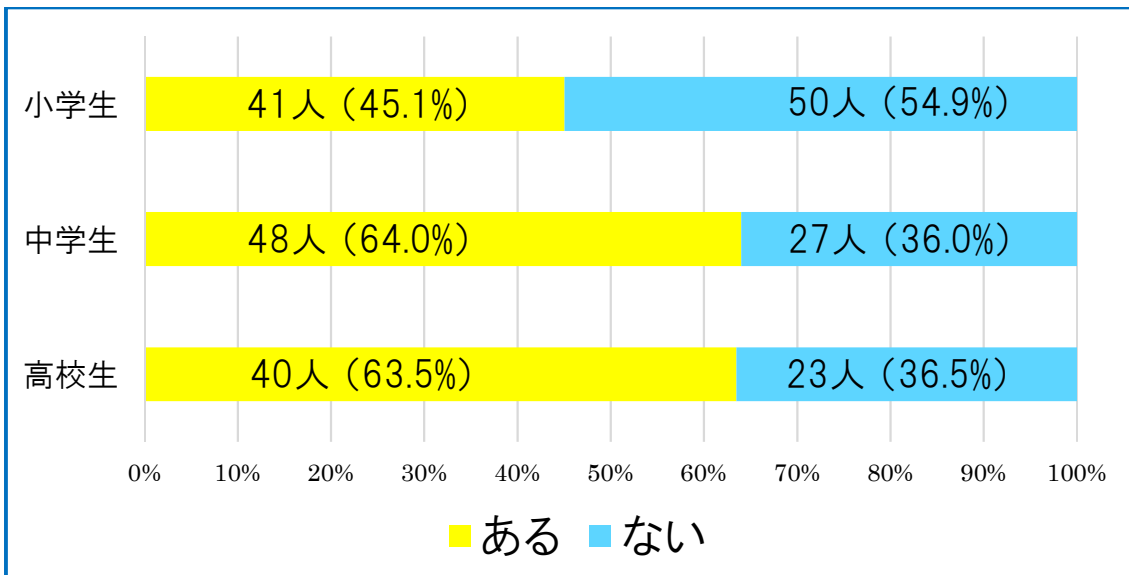
ネットみえ～る(スマホ用アプリ)

SNSで児童生徒にかかわるいじめや不適切な書き込みを発見した場合に、スクリーンショット画像を投稿できるアプリ「ネットみえ～る」を運用しています。

Q4 新型コロナウイルスの感染状況や感染者などの情報について、「～らしい」「～のようだ」といった、本当かどうか分からない情報を聞いたことはありますか。(単一回答)



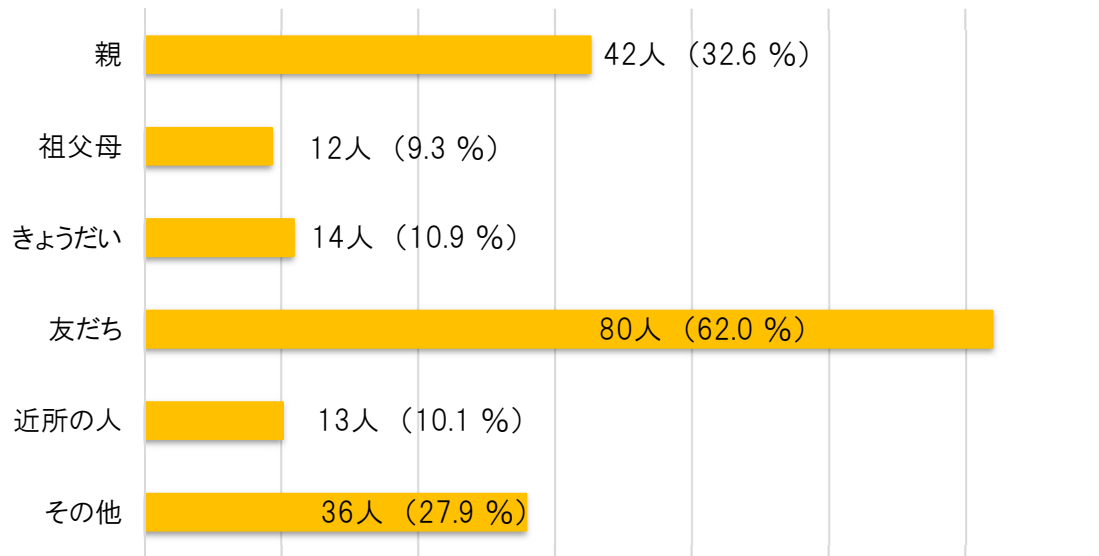
半数以上の方が、本当かどうか分からない情報を聞いたことがありました。また、中学生以上の方が、こうした情報を聞くことが多いことがわかりました。



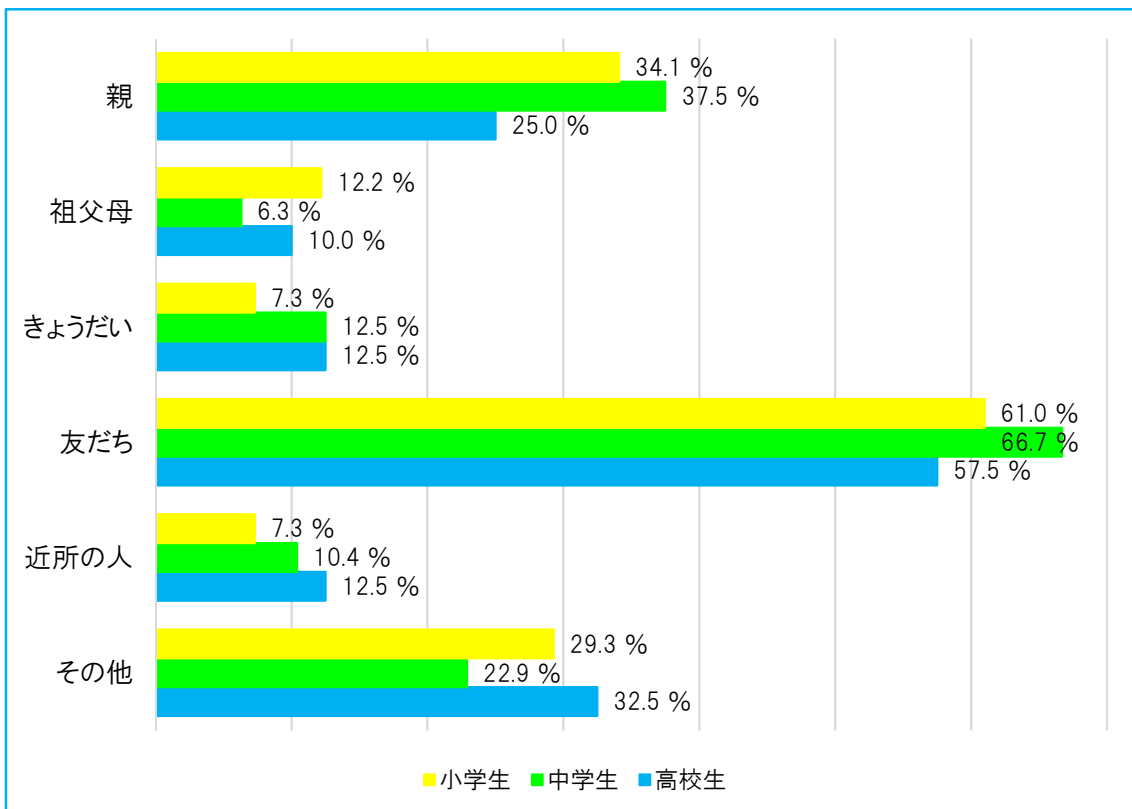
子どもたちが触れる情報の中には、むやみに不安を増大させるものや明らかに差別的なものもあると考えられるため、おとながそれらの情報を見極め、子どもたちが必要以上に不安を感じたり、差別的な意識を持ってしまったりしないよう、適切なアドバイスや指導を行うことが重要です。

Q5 Q4で「ある」と答えた人に聞きます。そうした情報をだれから聞きましたか。(複数回答)

「ある」と答えた129人の回答割合

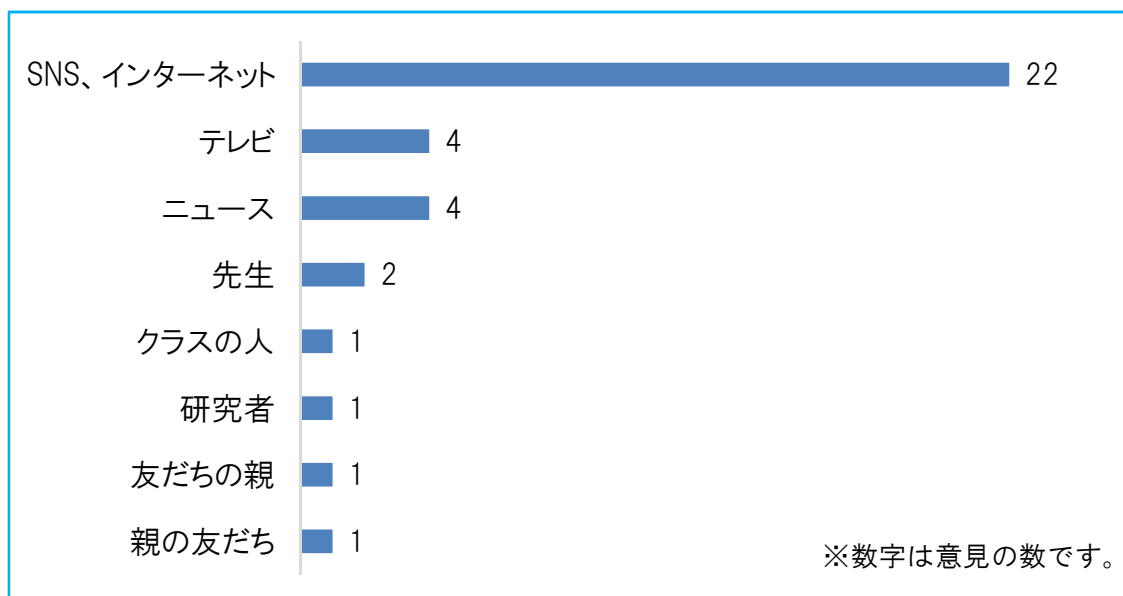


年代別の回答割合は以下のような結果でした。



いずれの年代においても「友だち」と連絡をとる中で、本当かどうかわからない情報がやりとりされていることがわかりました。新型コロナウイルス感染症に対する関心の高さや不安の大きさがうかがえます。

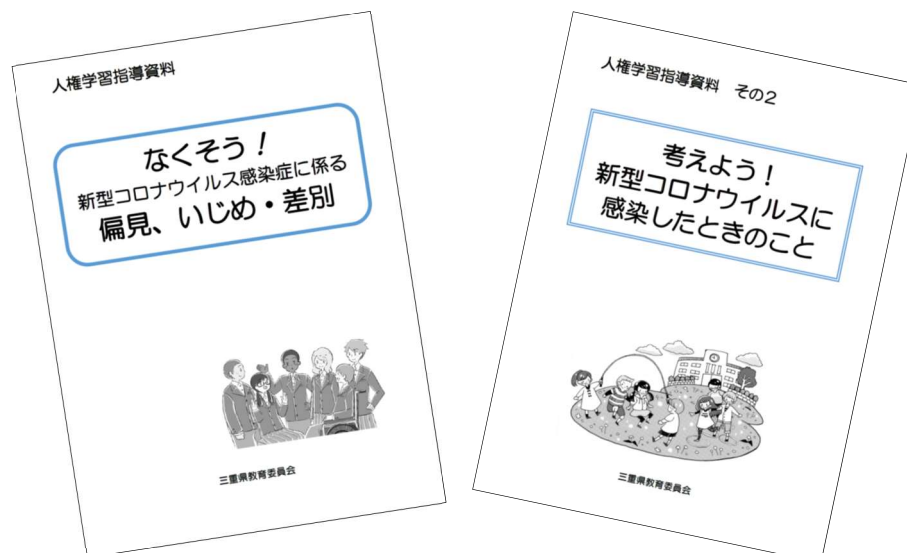
また、「その他」の回答として任意で記述してくれた意見の内訳は以下の通りでした。



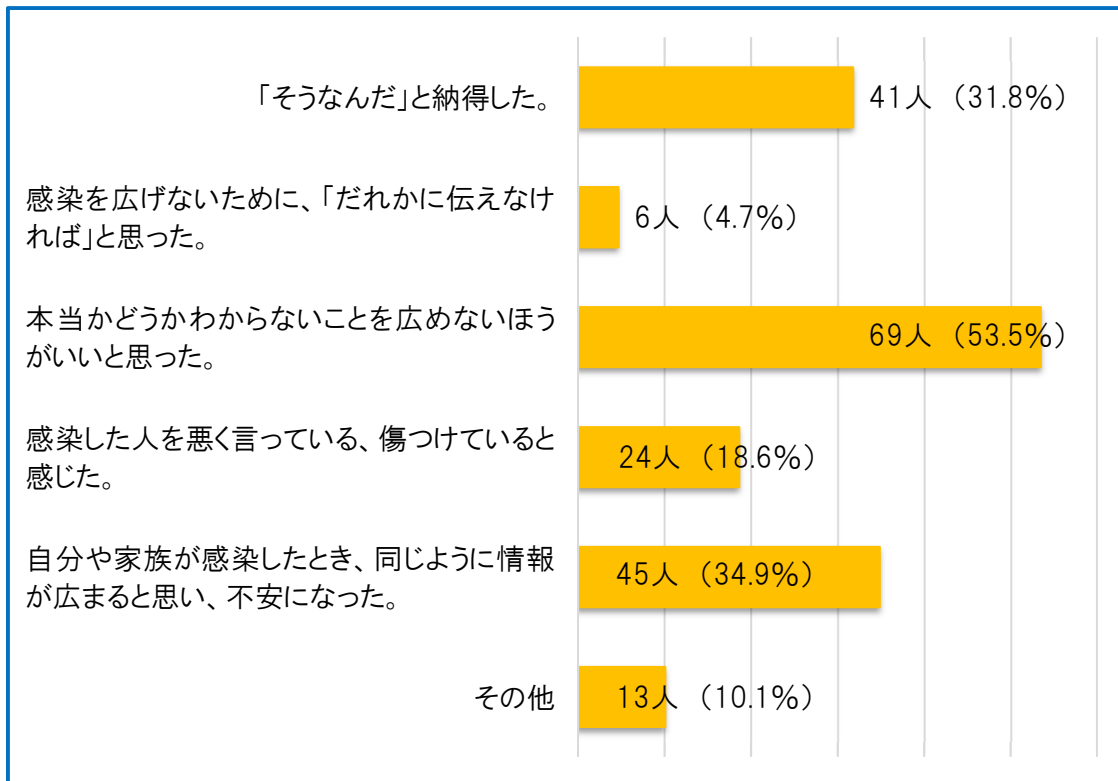
多くのインターネットからさまざまな情報を得ている状況を考えると、メディア・リテラシーや情報モラルに関する理解を深め、インターネットを通じて発信される情報内容を正しく読み取ったり活用したりできる力を身に付ける必要があると考えます。

県教育委員会では、新型コロナウイルス感染症にかかわって、子どもたちが不確かな情報に惑わされず、決めつけや憶測が偏見や差別につながることなどを理解するための人権学習指導資料を作成し、学校に配付しています。

また、学校での学習だけでなく、それぞれの家庭における啓発も重要であると考えます。



Q6 Q4で「ある」と答えた人に聞きます。そうした情報を聞いてどのように思いましたか。(複数回答)



53.5%の人が「本当かどうかわからないことを広めないほうが良いと思った」と回答しており、こうした情報を聞いても、半数以上の人情報への信ぴょう性を疑い、拡散を止める側に立っていることがわかりました。

また、こうした情報を聞くことで、「自分や家族が感染したとき、同じように情報が広まると思い、不安になった」と回答した人が34.9%おり、身の回りに広がる不確かな情報が新型コロナウイルス感染症に対する不安を増幅させていることがわかりました。

一方で、『「そうなんだ」と納得した」と回答した人が約3割おり、Q5の回答にあるように、主に「友だち」から情報を得ることを考えると、信頼できる相手からの情報であることが、情報への信頼性も高めている可能性がうかがえます。

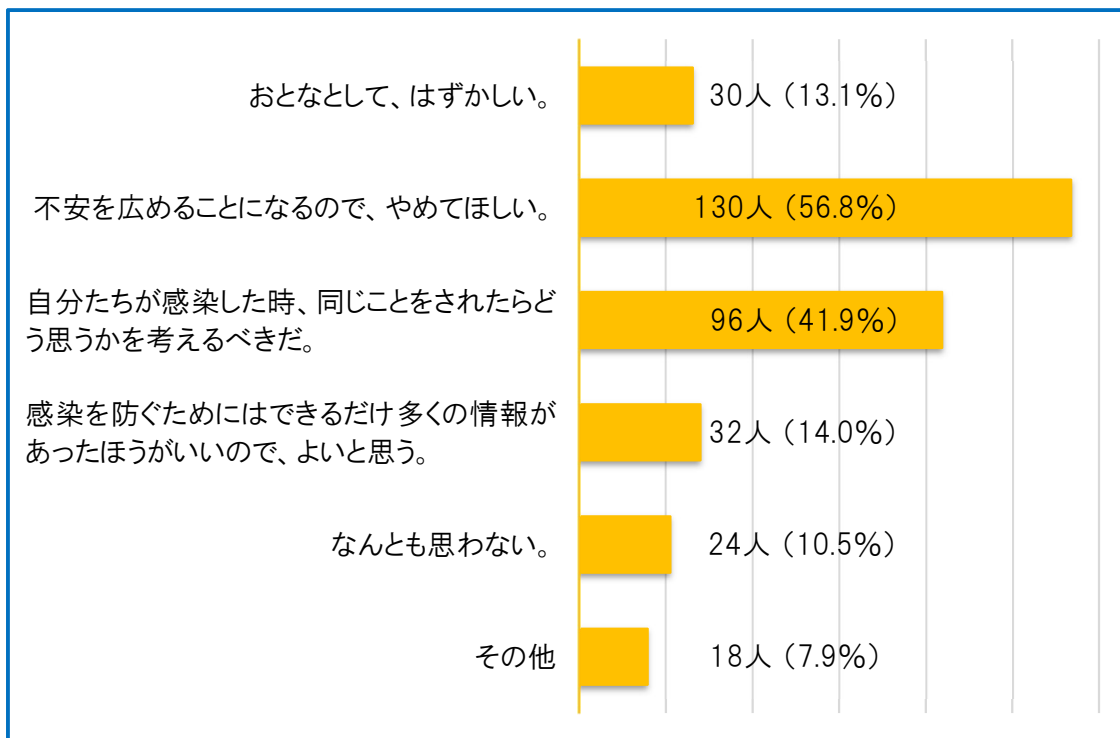
「その他」の回答として、

- ・小さい町なので、噂がテレビよりも早く広がる。
- ・「そうなの？」と疑問に思った。
- ・最初はすごく信じてしまったから、後で嘘とわかったら、腹が立った。
- ・何も思わなかった。

などがありました。

Q7 あなたは、親やおじいちゃん、おばあちゃんから本当かどうかわからない情報を事実であるかのように伝えられたら、どんな気持ちになりますか。(複数回答)

モニターの方、全体の集計結果は以下のようになりました。



また、年代別では以下のような結果でした。

	おとなとして、はずかしい。	不安を広めることになるので、やめてほしい。	自分たちが感染した時、同じことをされたらどう思うかを考えるべきだ。	感染を防ぐためにはできるだけ多くの情報があったほうがいいので、よいと思う。	なんとも思わない。	その他
全体	13.1%	56.8%	41.9%	14.0%	10.5%	7.9%
小学生	7.7%	59.3%	44.0%	14.3%	9.9%	6.6%
中学生	10.7%	53.3%	36.0%	13.3%	14.7%	6.7%
高校生	23.8%	57.1%	46.0%	14.3%	6.3%	11.1%

「不安を広めることになるので、やめてほしい」が56.8%と最も多く、年代別にみても、ほぼ同様の割合で選択されました。子どもたちは、小学生から高校生まですぐれの年代においても、本当かどうか分からない情報を広めることの問題性を理解しており、家族であるからこそ、こうした行動をしないでほしいと思っていることがわかりました。

また、年代別にみたとき特徴的であったことは、「おとなとして、はずかしい」の選択割合が、年代が上がるにつれて上昇していたことです。全体では13%と7人に1人の割合でしたが、高校生においては4人に1人が選択しています。子どもたちが自立に向けて着実に社会正義や公共心といった集団や社会とのかかわりに関する態度を身に付けていることがうかがえます。

「その他」の回答として

- ・ 情報に振り回されることにならないか、不安になる。
- ・ 人として恥ずかしい。
- ・ おとな、子どもということは関係なく、本当かどうか分からない事を事実のように伝えるのは良くないと思う。
- ・ そういうおとなにはなりたくない。
- ・ はいはい（と言って信じない）。
- ・ 本当かどうか分からない情報を信じることは、危険だと思う。

など、批判的な立場からの意見が多くありました。

また

- ・ 一応聞く。
- ・ 不安だから仕方ない。
- ・ 自分も感染しないように予防しようと思う。

という意見や

- ・ 予防策には多少でもなると思うから、情報はあった方がいい。けれど、言われている相手の立場になったら広めないでほしいとも思う。

という意見がありました。見えないウイルスに感染しないようにするためには「情報」はとても重要です。その一方で、最後の意見からは、感染防止に「正しい情報」が必要であることと、「不確かな情報」によって偏見や差別が生じていることへの複雑な心境が見て取れます。

この設問については、次のような意見もいただきました。

- ・ そんな言い方じゃない。悪いように伝えてなかった。悪い回答（選択肢）しかないのが変。この質問を考えた人も結局かたよった考え方だと思う。

家族が心配してくれていることに対する気持ちを表現した選択肢を設けていなかった点について、不快な思いをされた回答者の方にはお詫びいたします。

Q8 新型コロナウイルス感染症への不安を軽くするため、新型コロナウイルス感染症にかかわる情報に対し、親やおじいちゃん、おばあちゃんその他のおとなの人にどんな行動をしてほしいですか。(自由回答)

たくさんの意見をいただきました。以下に、年代ごとに分けて紹介します。

【小学生モニターの方から】

- ・「ワクチンができたよ」みたいな感じの明るいニュースを教えてほしい。
- ・マスクをつける。
- ・都会にも親戚がいて、「正月ごろになったら成人式とかでみんな帰ってくるし、家におったらいいわ」「みんな帰って来るからあんたもおいで」っておばあちゃんが言っていた。何で大丈夫って言えるんやろうって思う。
- ・はっきりした情報だけを教えてほしい。
- ・その情報が正しいか自分でも調べる。
- ・仕事や出かけた後は、手洗いなどまできちっとしてほしい。
- ・正しい情報を教えてほしい。
- ・必要な情報や、正しい情報、分かりやすい情報などを教えてほしいです。必要の無い情報等は、特に教えてもらわないでいいです。
- ・正しいことだけ話をするようにしてほしい。
- ・新型コロナウイルスに感染した人に対して、「大丈夫だった？」など、優しく接してほしい。
- ・フェイクニュースを作らないでほしい。
- ・とにかく「外出しない」をもっと言ってほしい。
- ・真実をつたえてほしい。
- ・新型コロナウイルスにかかった人を差別しないでほしい。
- ・「～らしい」ではなく、きちんと確かめて正しいことを伝えてほしいです。コロナにかかった人を悪く言わないでほしいです。
- ・うわさ話をしない。
- ・「かかるときは予防しててもかかるんだよ」と言ってもらったときは、少し安心した。
- ・誰から伝わってきたかわからない情報は信じないでほしい。
- ・ふだんかかってしまうインフルエンザと同じようにだれでもかかってしまうリスクがあるから手洗いうがい、マスクはもちろん、1メートル以上離れて過ごすこと、換気の良い場所にいること、話は短くすること、こんな時だからこそ明るく元気に笑顔で挨拶することなどをみんなで気をつけていきましょう。

- ・正しい情報を見極めることは難しいと思うけど、どこかで聞いた情報は他のところでも調べたり確認してほしい。
- ・自分がされたらどう感じるかを考え、うわさを広めないでほしい。
- ・感染しないように感染予防し、正しい情報は聞かせてほしい。
- ・おとなが感染を広めてると思うので、なるべく不要不急の外出はひかえてほしいです。
- ・聞いてもよく分からないから、聞きたくない。
- ・子どもはしたくもないマスクして授業受けたりして我慢してるのに、おとなはカラオケ行ったりご飯食べに行ったりしてるから、おとなもちゃんとするように、ルールを作ってほしい。
- ・新型コロナは新しい情報がたくさんあった方がいいのでなるべく多い情報を教えてほしい。
- ・外に出歩かない。人のたくさんいるところには行かない。
- ・県内市内の毎日の感染者数と感染経路が知りたい。それを聞いて自分も気をつけようと思えるから。
- ・新型コロナウイルスに感染しないように、マスクをはずさないようにして、手洗いうがいをちゃんとしてほしい。あとは、密を避けてほしい。なるべくしゃべらないようにして静かに過ごしてほしい。
- ・本当かわからない情報はみんなに広めずに、本当か分かったら、みんなに言った方がいいと思います。
- ・もしコロナに感染したら、外出を控えてほしい。
- ・わたしたちが不安にならないように正しい情報だけ教えてほしい。
- ・感染した人を悪いように言うのはやめてほしい。
- ・おとなの人はコロナを収束させると言ってお店を臨時休業させたりしているけど、実際コロナ患者の人は増え続けています。それはお店の人の売り上げを下げるだけで意味がないのではないですか。今の社会は経済を優先された方がいいと私は思います。
- ・飲食店で密にならないように席同士を離すなどの工夫をもっとしてほしいです。
- ・手洗いうがいを徹底してほしい。マスクも！

【中学生モニターの方から】

- ・変に隠さず、事実を伝える方が良いと思う。どこに住んでいる人とか隠すから不安になると思う。悪いことをしたわけじゃないのに隠す風土が悲しい。
- ・正しい情報や対策は守って、ネット等の情報は広めない。
- ・情報よりも不要不急の出歩きはしないように注意喚起をしてほしい。

- ・ 確定しているわけでもない情報を流すのはやめてほしい。
- ・ 正しい情報を教えてほしいことと、ネットのニュースなどで今の状況を詳しく教えてほしいです。
- ・ 県外に出勤する父は身近でコロナになった方がいらっしゃるようで、教えてくれたことにより父は更に感染予防対策を強化してくれた。そのようにプラスになる情報を伝えてほしい。
- ・ はっきりしないことは言わない方がいい。
- ・ 正しいかどうかわからない情報を拡散しないようにしてほしい。
- ・ うちのおじいちゃん、おばあちゃんは、買い物と病院以外は出歩かないように実行している。
- ・ 感染した人の悪口は言わないでほしい。
- ・ 必要以上の情報を公表しないでほしい。県からの発表って、「本当に必要ですか？」ってことまでありすぎ。だから、かかると不安。
- ・ 正しいことを教えてほしい。
- ・ 正しい行動をとってほしい。
- ・ お互いさまの気持ちを持つこと。
- ・ 買い占めするな。冷静になれ。自分は大丈夫だと思うな。マイルールを作るな。
- ・ うがい、手洗いをしっかりして安全に過ごしてほしい。
- ・ 絶対に正しいと確信が持てるような情報だけ自分に伝えてほしい。
- ・ 「本当」だという具体的な証拠がある情報を伝えてほしい。
- ・ 不安を軽くしなくて良いと思う。緊張感とか不安があるからこそ対策しようと思えるから。
- ・ 情報が正しいのかを確認してからにしてほしい。
- ・ 本当かどうかわからないことを何でもかんでも言わないでほしい。
- ・ 本当のことだけ知りたい。
- ・ 「〇〇〇がなった」と言ったりするのはいいが、それを悪く言うことがあるのなら、絶対にやめたらいいと思う。
- ・ 本当かわからない情報は、安易に広めないようにしてほしい。本当かどうかわからないのに、人を非難したり、悪く言ったりしないでほしい。
- ・ 都市の人が来たとしても、その人のことを何も考えずに、ひどいことをするのは、やめてほしい。
- ・ 無駄な行動を慎んでほしい。
- ・ 自分たちで意識して、必要以外の外出を控えるなどしていかないと感染は止められないと思う。
- ・ 行動を自粛してほしい。

- ・ 本当の情報かわからないため、わざわざ言ってこなくても良いと思う。嘘だったときにどうしようもできないので騒がないでほしい。
- ・ 常に手洗いうがい、消毒をして感染しないように注意してほしい。
- ・ 正しい情報だけを伝えてほしい。自分でも調べて正確な情報を知る。
- ・ おとなに頼るばかりではなく、自分で考えることが大切だと思う。おとなには、小さい子の模範となるような行動、言動をとってほしい。小さい子は、おとなを信じているため。

【高校生モニターの方から】

- ・ とりあえず外出しないでくれたら安心。
- ・ 噂に惑わされるな。
- ・ よくわからない。でも人を傷つけるのはいけないと思う。
- ・ 思い込まない。
- ・ 確かでない情報を伝えてくるおとなは身近には居ない。悪口や石を投げる人がいるとニュースで知ったが、気づかひや思いやりを持つことに気付いて欲しい。
- ・ 現在の状況ではどれが正しい情報か見極めるのが難しいと思うので会食の機会を避けてほしい。
- ・ コロナについてまだまだわからないことが多いので、情報を慎重に確認すること。
- ・ 適当な話は、しないでほしい。
- ・ うわさ話や真偽のわからない話はやめてほしい。
- ・ 身近な人ではどうしようもないが、PCR 検査を気軽に受けられるようにしてほしい。感染しないためにどういうことをしたら良いか。感染した場合はどうしたら良いか正しい情報を知りたい。
- ・ できるだけ、出歩かないでほしい。だが、出歩かなくなると、おじいちゃんやおばあちゃんは衰えてしまうので、人と接しない程度に出歩くことは継続してほしい。
- ・ 正しい情報なのか、しっかりと調べてから自分の知っている情報を発信してほしい。情報社会を生きていて、メディア・リテラシーの重要性を子どもたちに教える立場であるのだから、自分たちがまずはっきりとその姿勢を見せてほしい。
- ・ 正しい情報だけを知りたい。
- ・ 正しい情報でも当事者を傷つけることになる情報は、広めないようにしてほしい。その時々にはできる限り正しい情報を得て、感染しないように過ごせるよう助け合いたい。

- ・ うわさ話はしない。
- ・ 差別をなくしたい。
- ・ 正確にわかっている情報を教えてほしい。
- ・ 正しい情報源であるか、正しい情報であるかを冷静に考えて、自分自身をコントロールして、今はコロナ対策で何をすべきかを考えて行動してほしい。
- ・ コロナの感染に関して軽視するような発言をして、感染者が増えることも良くないけれど、不安を煽るような事をして、ストレスが増えるのも良くないので、真剣に話し合い、考えてほしい。
- ・ 厚生労働省や保健所などの公式な情報を取り入れて、個人情報などの噂は広めないでほしい。
- ・ うわさが耳に入ってきてても、他の人に話さないでほしい。
- ・ 事実だけ教えてほしい。
- ・ 絶対に正しいことは正しいと、リスクを抑えるために確信のない情報は正しいかは分からないという前置きをしてから伝えてほしい。
- ・ コロナに関する情報が本当に正しいかどうかしっかりと見極めてから話してほしい。
- ・ 医療従事者しかコロナのことは語ってはいけないことにすればよい。
- ・ まともな判断をするために、まずはテレビをやめることから始めてはどうでしょうか。
- ・ マスクと手の消毒の徹底をしてほしい。
- ・ 人の意見に左右される事なく、自分がしっかりした情報を入れればいい。
- ・ 自分ができる分の対策はして、かかった人に対しては差別するのではなく、心配する気持ちを持ってほしい。
- ・ むやみやたらに不安をあおらず、しっかりとしたソースに基づく情報のみを広げてほしい。
- ・ 自分が SNS で不確かな情報を聞いた時、親に「〇〇なんだって！」と話したら、「出所はどこなのか。不確かな情報は他に伝えるべきではない」と教えてもらったので自分は誰にも広めなかった。そのうわさは、実際のこととは違ったようで、おとなに話して正しい意見を知ってよかったと思う。
- ・ 感染に対する心配ばかりしていると、気がくるってしまいそうになるので、関係のない話題を振ったり、これを良い機会に、コロナ禍でも前向きに考えられるようにしてほしい。
- ・ 感染した人のことを気づかってほしい。
- ・ 昔からの予防法などを教えてほしい。

たくさんの貴重なご意見、ありがとうございました。モニターのみなさんのアンケート結果やいただいた意見を参考に、わたしたち県教育委員会をはじめ、おとな一人ひとりが自分自身の言動を見直し、子どもたちの範となることが大切だと感じました。

みんなで一丸となって新型コロナウイルス感染症に立ち向かい、この困難を乗り越えていきましょう！

最後に、「県政だより みえ（令和2年11月号）」に掲載された記事を改めて紹介します。

県政だより みえ（令和2年11月号）より引用

インタビュー

新型コロナウイルス感染症拡大と差別の連鎖を断ち切ろう

新型コロナウイルス感染症に関連する差別をなくすため、私たちが考え、行動すべきことは何でしょうか。

日本赤十字社の啓発冊子「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！〜負のスパイラルを断ち切るために〜」の作成に携わった、伊勢赤十字病院公認心理師の中井茉莉さんにお話を伺いました。

Q 新型コロナウイルス感染症に関連する差別は、なぜ起こるのでしょうか。

A 人は不安や恐怖を感じると、生き延びるために本能的に危険を回避しようとし、延びる。しかし、ウイルスは目に見えないため、感染者や特定の地域・職業といった目に見えるものが嫌悪の対象となり、差別や偏見につながるがあります。このような差別や偏見がまん延してしまうと、症状があっても受診をためら

う人が増え、結果として感染症の拡大につながる「負のスパイラル」が生まれてしまいます。

Q 差別や偏見を防ぐために、不安や恐怖にはどのように対処すればいいのでしょうか。

A 未知の感染症流行に対して不安や恐怖を感じるのは人間の自然な感情です。しかし、その感情に振り回されずに、まずは一度立ち止まり、自分の気持ちを振り返ることが大切です。いつもより不安を感じている自分に気づくことができれば、意識的に休息をとったり、親しい相手とコミュニケーションを取るなど、心を和らげるための工夫ができます。

また、世の中に溢れている情報との付き合い方にも工夫が必要です。悪い情報ばかりに注目したり、うわさ話を耳にした時にすぐに拡散するのではなく、正確性や根拠のある話かどうかを一人ひとりが十分に見極めることが大切です。

Q 私たち一人ひとりにできることは何でしょうか。

A 「負のスパイラル」の仕組みを知って、日々の生活の中でできることから断ち切る工夫をしていただきたいです。

そして、物理的に人と距離を取らざるを得ない状況だからこそ、人と人とのつながりを大切にしたいと思えます。不安を感じた時、不確かな情報を耳にした時、行動や言動の前に「自分が相手の立場ならどう感じるだろう」と一歩立ち止まって考えてみてください。

みんなが一つになって、新型コロナウイルス感染症に立ち向かいます！

啓発冊子「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！〜負のスパイラルを断ち切るために〜」は、インターネットでご覧いただけます。



新型コロナウイルス 3つの顔 ○検索



伊勢赤十字病院
公認心理師
中井 茉莉さん